

琉球大学附属図書館所蔵「宮良殿内家（みやらどうんちけ）関係資料」の重要文化財指定について

2025/3/26

琉球大学附属図書館 保存公開係

【概要】

附属図書館所蔵「宮良殿内家（みやらどうんちけ）関係資料」（宮良殿内文庫）348点について、稀少性や学術的価値が認められ、国の重要文化財に指定される運びとなった。

【宮良殿内家（みやらどうんちけ）関係資料について】

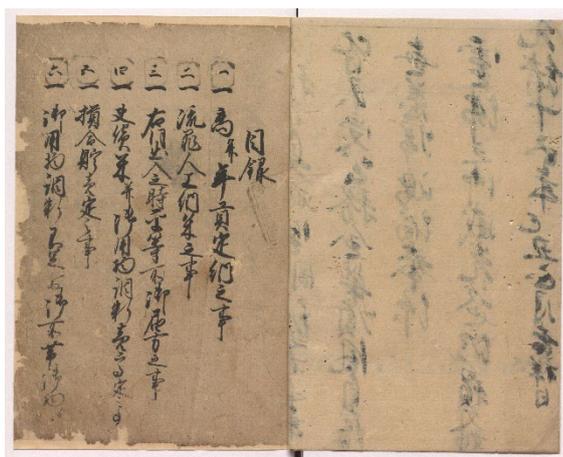
近世の八重山地域において代々頭役（かしらやく：行政区の長）を輩出した宮良家に伝来した資料群。「宮良殿内」とは、宮良家に対する尊称。資料のほとんどは、乾隆36（1711）年の明和の大津波以降のものである。八重山の行政に関する文書や首里王府との往復文書のほか、儒教関係資料や琉歌集・和歌集など、教養に係る資料も含まれており、八重山の歴史や当時の行政の様子、当該地域士族の生活・文化の具体を知ることができる資料群である。

昭和37（1962）年、当時の当主である宮良當智氏の「広く研究に役立ててもらいたい」という意向により、琉球大学附属図書館へ寄贈された。平成9（1997）年にはデジタル化を行い、現在「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」にて一部資料のデジタル画像を、解説や翻刻文等を付した上で公開している。

*参考：宮良殿内文庫概要（琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ）

<https://shimuchi.lib.u-ryukyu.ac.jp/collection/miyara/about>

【指定された宮良殿内家関係資料 ※一部】



「八重山島諸座御規模帳」

（ヤエヤマジマ ショザ オキモチョウ）

1768年成立。

規模帳とは、行政の基本指針を定めた布達書のこと。

各村に布達された行政指針を60項目にわたり記録したもので、米や御用布など年貢貢納のことから諸村等への船路往来まで詳細な記述がみられる。



「頭役被仰付候以来日記」☆

(カシラヤク オオセツケラレソウロウ イライ ニッキ)

1872年8月仕立て。

宮良親雲上当宗が、八重山での最高職である「頭役(かしらやく)」に任命された日から書かれた私日記。

首里での任命儀礼や八重山での公務の様子など、多様な情報が記されている。



「八重山嶋江一世流刑手形」☆

(ヤエヤマジマ エ イッセイ ルケイ テガタ)

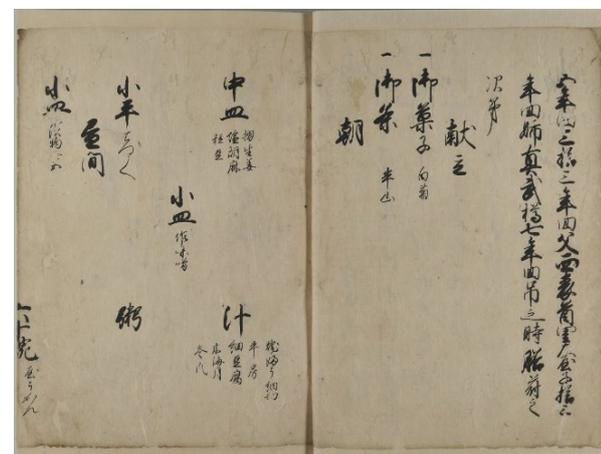
1854年の「ボード事件」(ペリー艦隊水兵殺害事件)に関する重要資料。ペリーからの犯人引き渡し要求に対して、王府は替玉の犯人(カマ渡慶次)を仕立てて対応した。本史料には、カマ渡慶次の罪状や八重山へ「一世(一生)流刑」の旨が記されている。



「馬絵」(ウマエ)

1872年に宮良当宗によって描かれた馬の絵。

薩摩人が羽織袴に上下を着し、馬飾りを施した馬を疾駆させている様子が描かれている。



「祭之時膳符日記」(マツリ ノ トキ ゼンフ ニッキ)

1862~1901年の記録。

宮良殿内(宮良家)で執り行なれた家庭祭祀(法事・盆・十六日祭・彼岸など)の記録。行事の礼式や法要料理を中心とした膳部(お膳料理)の詳細が記されている。

【関連動画】

今回の指定を機に新たに収録した、関係教員及び附属図書館職員に対するインタビュー動画や、これまで制作した当該文庫資料解説動画を、附属図書館公式 YouTube チャンネルにて配信している。

- 「宮良殿内文庫」の重要文化財指定に寄せて



- 【宮良殿内文庫】近世八重山役人の日記を読み解く！【琉球沖縄関係デジタルアーカイブの世界#1】



- 【宮良殿内文庫】八重山役人の漂着対応マニュアル【琉球沖縄関係デジタルアーカイブの世界#2】

